

No. 98

由良公民館だより

平成8年4月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

由良岳・森ヶ鼻道によせて(五)

館長 山下 清

旅の途次、車窓から移り変わる景色を眺めていると、何時しか、遠くなってきた故里のことが、思い出されます。

家のこと、隣人や友のこと、今日の天気や、奈良磯の模様、車窓から見る他国の山々から、由良岳が連想され、高さを目測したり、山容を比べながら遠くへ来たものだと、少々郷愁を感じつつ、啄木の、

かにかくに遊民村は恋しかり
おもひでの山おもひでの川
啄木
を口ずさんでいるのです。

啄木にかぎらず、多くの歌人が故郷や友を懐かしみ歌った詩は数多くありますが、古里由良を遠く離れた異郷の地で活躍されておられる方々は、在郷の者では感ずることが出来ない、故郷への熱い思いに耽られることが度々のことと 생각합니다。

ふる里の山に向ひて言ふことなし
ふる里の山はありがたきかな
啄木

今年の冬は私の記憶にない寒い冬で、由良岳は昨暮れから雪を冠り、二月堂のお水取りが終わっても、銀嶺を寒空に輝かせ

ていました。

森ヶ鼻道から眺める北西の空は重たく低く、飽くまでも暗い鉛色で、小鳥や水鳥の姿もなく、深い眠りの田畑や枯野のたたずまいは、雪国の侘びしさが、一層感じられる冬景色でした。

寒さの所為か、普段見かける冬鳥も暖を求めて移動したのか、雀までも希に見かける程で、由良駅のプラットホーム脇の浜茄子の枯木のような小枝に、小さな黄みどりの小芽が春を待ちつつ縮こまっていました。

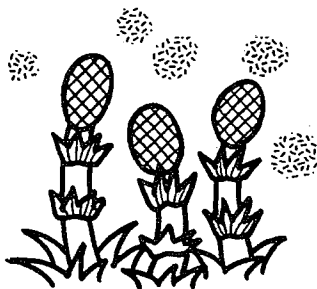
それでも三月の声と共に、雉鳩や雀、つむぎや鶇が帰って来たようです。早い年ですと桜の蕾も膨らみ始め、燕の姿も見かけられる頃ですが、風は冷たく日は浅く、何もかもがおくれているようです。

森ヶ鼻川も漸く雪解けの水勢が強くなって来ました。鉄道沿いの新川や、エラ川の流れにも春の日が射し始め、芹や名も知らぬ水草の青が目につくように

なりました。

まだ水は冷たく、小魚の姿も見られませんが、近年めっきり減った鮒、姿を見せない目高やこえび、泥鰌等、何処へ行ったのか心配です。網やかご、バケツを持って川岸や土手を忙しく右往左往する子供の姿が懐かしく目に浮かびます。小川の泥を被りながら何も忘れて、小鮒や蝦すきに興じた私たちの子供の頃を偲びながら、今の子供たちに、魚が住む豊かで、美しい川を残したいと願っている一人です。

水ぬるむ春の日射しや芹の青



行事報告

主事 酒田 治

●第十三回宮津市民卓球大会

十一月二十六日(日)

本年も宮津市体育館において市民卓球大会が行われました。

例年に負けない熱戦がくり広げられ、個人Aでは昨年に続き、川崎 清さんが優勝をかざりました。

岸田ゆかり 野村 馨 浜田智香子
三嶋 康弘 山田 崇 野村 幸子
山田 貴一

●第十一回人権学習会

一月二十一日(日)

基本的人権は人間が自由に、平等に、健康で幸福に生きるための権利です。

●成人式

一月十五日(月)

「ご成人おめでとう」

宮津市で今年成人を迎えられた方は二五一人ということです。皆さんお元気で、青春の真ん中へレッツゴー

【由良地区で成人された方】

(順不同敬称略)

岩上真由美 瀬戸野 浩 田村めぐみ
掘家 喜美 山田 寿之 大石 詔子
北地 克彦 大森 健雄 中西 由美

日本国憲法は「民主主義」「平和主義」……人間の尊厳……「基本的人権」の保障を規定しています。(憲法第十一条、九十七条)

本年より同和学習会を人権学

習会に変更致しました。

第十一回目の学習会を、宮津市教委・檀野一義先生に講演をお願いし、また、同和研修映画を、市教委・本藤係長、河原主事にお願いいして行いました。

講演では、現在、小学校、中学校の社会科の教科書で、差別に対して憤り、人の心の痛みから入り、江戸時代の身分制度、基本的人権、偏見、自分の問題として理解するといった、高度

な人権学習を行っておられるお話、なお中学生ともなれば、更に就職差別、結婚差別まで踏み込んだ学習を行っています。

それに対して親(大人)はどうでしょうか。「あなたも」……次回は是非ご出席下さい。

講演の後は同和研修映画、「輝ける日々へ」を上映。高校を卒業し、希望に胸をふくらませ、社会人として飛び立とうとする少女、雅子の前に、差別の厚い壁が立ち塞がりま

す。本人

の能力、適性以外のこと採用の基準とされてしまいました。

それに向かって、いろいろの方の支援を受ける中で、「逃げないぞ」と決心して立ち向かい、勝利を勝ち取った映画でした。

私達も、子供達に負けないように学習を重ねて行くこうではありませんか。

●四部対抗男女バレーボール大会

二月四日(日)

本年は思わぬ大雪に見舞われ、残雪の残る寒い日、体育館の中では毎年、榎本さんのストレッチ体操が始まり、黄色い声援が飛び交う戦いが展開。中には、元氣一杯で天井までサーブ、レシーブする方も見える中、大会も終了しました、結果は次のとおりです。

優勝	男子の部	女子の部
準優勝	四部	三部
三位	二部	二部
四位	一部	一部
	一部	四部

●四部対抗囲碁大会

二月四日(日)

外の寒さとはうって変わり、静寂の中に熱気がむんむんと立ちあがる戦いでした

優勝 宮本地区

●自治学級

二月十一日(日)

「明るく希望に満ちた由良の創出について」

とにかく私達は、地区の皆様
に少しでもたくさんご参集して
いただき、山下市会議員、中西
自治連会長のお話をお聞きし、
その中より、今後の由良につい
ての、ご意見等をお聞かせ願う
なかで、公民館も出来ること
があればお手伝いし、少しでも由
良が良くなるようお願い、毎年自
治学級を開催しているところで
す。どうかご理解をいただき、
少しでも多くの方のご出席を心
よりお待ちしております。(子細
は別記)

●生涯学習講座講演会

(婦人会共催) 二月

本年は、府立与謝の海病院、
精神神経科医長・上村 宏先生
にお願いして、「老人性痴呆症」
について講演をして頂きました。
専門の立場から、医学的なお話
から実践的なお話まで、解りや
すくお話をされました。

その中から自己診断として、
一年前と半年前とをくらべて、物
忘れがひどくなっていないか？
変わってなかったら大丈夫だそ
うです。

痴呆症は男性より女性に多い。
ゆっくり、突然の二つの種類
があるそうです。

お年寄りの痴呆の年令別割合

年齢(歳)	割合(%)
六五～七〇	一・二
七〇～七五	二・九
七五～八〇	四・九
八〇～八五	一一・七
八五以上	一九・九

何か夢中になるような趣味を
作ることが大切です。



四方寿朗氏提供



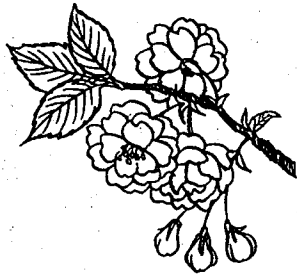
成人式を迎えて

岩 上 真由美

一月十五日は、あいにくの雨となり、みんな晴れることを願っていたはずなのに、とても残念だったと思います。でも、久しぶりに懐かしい友達に会えて、話はずんでいました。周りの人の顔を見ると、みんな晴れやかな笑顔で、とても楽しそうでした。

この成人式という日を機に、私達に「責任」という重い言葉がのしかかってきた訳ですけれど、その言葉におしつぶされなような行動・言動が持てるような人になっていきたいです。これから少しずつ、「大人」という、「責任」という言葉の意味を、しっかりと理解していかなければなりません。みんな、それぞれのペースで一步一步、前に進んでいくんだろうと思

ます。そんな私達を、まわりの大人の人達はどう感じて見ているのか。まだ踏み出したばかりの私達ですが、今、ひとつひとつ先輩の人達に指導していただき、また体験していつか、私達この先何が一番大切な物が見つけたていきたいです。その中で、人の苦しみや悲しみがわかるやさしきをもつていける、そんな大人に一步一步近づいていきたいです。



四部対抗バレーボールでV2

四部 山 田 博 義

恒例の四部対抗バレーボール大会男子の部で、第四部が二度目の優勝を果たしました。勝因は、対戦の順や相手の不調等がうまく重なった結果だと思います。が、その陰には、毎年最下位が現状の四部といえども、実力もあつたからこそと自負しています。スキも実力のうちです。前回の優勝は地区に住んでいた元気な助っ人の力が勝因でしたが、今回は純四部で勝つた事で喜びもひとしおでした。

以前の四部は、うまく力が噛み合わず、勝つ事が出来ないばかりか、僅か一セット取れただけでも上出来だとチームを慰めた状態でした。三地区の連合という事もあり、なかなか連帯感の深まらないまま試合にのぞみ、雰囲気のみなぎり始めた頃には

試合も終わってしまふ。そんな展開の繰返しが常例でした。他部と違う何かハンディキャップのように感じ、チーム作りも難しく感じる面でもありますが、今後の課題として改善の余地のあるところかと思ひます。

今大会でも、普段無音の人に多く出会えた事、五十歳で、引退してはと言われつつも、プレー出来ると同時に体が動かせる事が私としては最大の喜びでした。年配者の混じったチームも、温かみも感じられて良いものでした。スキと実力の、二勝一敗での優勝でしたが、次は全勝優勝もしてみたいものです。何はともあれ、V2という事でしたが、今後共チームワークの良い四部、和気あいあいの四部でありたいと思つていきます。

四部対抗バレーボール大会に参加して

田中順子

去る二月四日、由良小学校体育館で四部対抗バレーボール大会が開催されました。

私は今回で三回参加させていただいていますが、毎年寒い日で、今年も雪が積もり、手も足もコチコチ。こんなので思うように動く事が出来るか心配でした。

まずは男子の試合から、好プレー珍プレーの連続で、私達は拍手をしたり大笑いをしたりで、あつという間に終わってしまいました。

いよいよ私達の試合です。コートに入ると、みんなに見られているというのもあって、やっぱりドキドキ。みんなとても上手で、私も足を引っ張らないように必死です。それでも、ワン、ツー、スリーの掛け声でスムーズに点

が入ると、試合前の手や足のコチコチはいつものまにかなくなり、後は楽しいばかりでした。

いつもこの大会で思う事は、年令、性別関係なく（試合は男女別ですが）同じ地区に住む人が、アットホームな雰囲気です。スポーツを楽しんでいていいな、という事です。そんな大会に参加させていただいた事を嬉しく思います。

おかげ様で全試合に勝って、浜野路女子は、優勝する事が出来ました。

最後に、楽しい一日を過ごさせてくださった役員の皆様方には、朝早くからいろいろお世話になり、ありがとうございます。

四部対抗碁会に参加して

熊田良雄

二月四日（日）午前九時より恒例の四部対抗碁会が、実施された。今年は、昨年と少し変わったメンバーが参加したためか、緊張気味の内に碁会が進んで行く。しかし、一時間もたつとあちらこちらから舌戦が始まり、いつもの賑やかさが戻ってきた。毎年二部が優勝候補に上がるが、今年は一参加で四人で戦うため、どの部が勝ち上がるか予想がつかない。いずれも口八丁手五丁の連中なので騒々しい限りであったが、昼を過ぎると勝負のメドがついてきた。お互いに星のつぶし合いをしたためか、戦前の予想に反して、二部が優勝する可能性が高くなってきた。結果的にはまた二部の優勝となったが、近年各部の力量の差が縮少してきたので、油断は禁物で

ある。毎年思うことだが、生涯教育の一環として、碁を習うことは、いつまでも若さを保ち老化防止に非常に役に立つが、会員の増えないことが残念である。それで、今年も、次のことを目標に一年間努力しようと思えますので、ご協力下さい。

一、女性会員をつくる
二、小、中学生に碁を教える
碁を習ってみたいと、思われる方は左記の所まで、ご連絡下さい。

宮本 大石俊雄宅
なお、碁の例会は、毎月第一と第三の日曜日午後一時より、由良中央公民館で開催しております。どうか皆様おそろいで出かけ下さい。

自然に親しむ

宮津市立由良小学校長 梅垣 藤彦

受動的な立場に立つことが多くて、ある程度の指示がないと動けない、動かない傾向がある。最後までやりとげるといふ精神力、ねばりがない。明るく率直で、初対面の人にも平気で接している。

現在の子どもたちの特徴について、このように三つの側面からとらえる見方がありますが、行動面からいえば、よくいわれているように、自由な時間はほとんど室内での遊びに使い、テレビやファミコンを相手にした一人遊びがどんどん増えていることがあげられます（基礎体力の低下。視力の低下。現実と物語の世界が一緒たになり、弁別がつかない等の現象）。この傾向は、もはや都会の子だけでなく地方の子でも同様で、由良

の子どもたちも例外ではありません。せん。

本校で行った調査によれば、ファミコン等を持っている割合や遊ぶ時間は、学年とともに大きく増加しています。身近に豊かな自然がいっぱいあるのに、由良岳、由良川、由良の海や浜が、家から数分歩いたら澄んだ水の流れる小川や野原があるのに、その中で元気に遊びまわるといふ子は少ないのです。「うさぎ追いかの山、小鮒釣しかの川」といふ風景は、もう過去のものなのでしょう。

自然のもつ面白さや不思議さを追いかけている子もいます。この三月の卒業文集の中で、A君は「大きななまずを捕まえて水槽で飼っていたら、なまずの赤ちゃんが誕生した。とても感動した。最高の思い出です」と述べています。また、Bさんは「由良岳登山が一番の思い出。途中で雨が降って滑るし、どろどろになって苦労したけど、山頂から見た景色はとってもよかったです」と書いています。

身近なところに、こんな素晴らしい自然がある。目と耳と心をつなぐ。自然とふれあひ、自然を友とし、自然の大きさを満喫するこんな子どもたちが、もつとも増えてほしい。そして、自分が生まれ育ったこの由良の地を、山や川や野や海や浜で遊んだ思い出とともに誇りをもって語ることができ、ふるさとを愛し、「うるおいのある由良のまちづくり」に貢献できる人として成長してほしいと願っています。

学校としても、特別活動や生活科・社会科の学習で、地域の文化や自然を教材として取り上げてきましたが、平成八年度にはこうした体験的な学習（活動）を一層推し進め、ふるさとの文化や自然のよさを知り、親しみ、元気に活動する子どもたちの育成に務めていきたいと考えているところです。自然の営みと対面する中で豊かな感性を、科学的な物の見方・考え方を培うことにつなげればとも思っています。



自治学級

◎館長挨拶

中西自治連会長、山下市会議員にはお忙しいところ、本日の自治学級に講話をお願いし、その後、皆様と共に今後の由良、明るく希望に満ちた由良に一步でも近づくお話をいただきました。思います。

◎山下市会議員より

昨年は、阪神、淡路大震災、オウムによるサリン事件、住専問題、また村山内閣の交替等きびしい年であった。

宮津市も第四次総合計画（平成三年から平成十二年まで）に基づき市政が展開されているが、今年はその曲がり角（中間）となり、重要な時期となります。

次に宮津市は、平成七年、市が取り組んだ十大ニュースを発表しています。

(一)ゴミの減量化のための粗大ゴ

ミ 処理施設の運動開始

(二)市民と行政が一体となり阪神、淡路大震災被災地を支援した。

(三)歩ら輪ぐるト、ぶらり歴史のみち、ぶらり寺まちのみちの整備。

(四)道路整備、鳥取・豊岡・宮津自動車道、野田川―宮津間が整備区間に指定される。

(五)国道一七八号線、養老―伊根、パイパス工事着工。

(六)消防防災施設と、休日医療施設着工による体制強化。

(七)観光、宮津ふれあい朝市の開催。

(八)在宅介護支援センターが開設された。

(九)中町通り地区土地整理事業が認可された。

(十)三上家の土地、家屋の取得を決定（八、七七六万円）

となつています。

また、平成七年度の重点項目別市政の報告と展望について申し上げますと、

○宮津市の活性化、若者の定住出来る町づくりについて

(イ)リゾート開発―日置地区須津工場（オリカ(株)宮津工場）の完成

(ロ)浜町駐車場整備（第三セクター）市より四、五〇〇万円出資、四階五層の立体駐車場（十一月営業開始予定）、駐車台数、乗用車四五〇台、バス一六台

(ハ)阪急電鉄（仮称、丹後マート）近く着手され、本年末オープンを目指す。

企業誘致、リゾート開発計画を取り組むなかで、若者を引き付け、市の活性化を考えて行くことが大切であります。

○健康で福祉の町づくりについて

(イ)四月、きめ細かなサービスを行うため、ホームヘルパー二名充実し、七名で取り組んでいます。

(ロ)人間ドック受診を成立（国保加入者、三十歳以上）助成金は受診費用の八割。①与謝

の海病院、②太田病院、③中川医院。多くの方が利用頂きたい。

(ハ)在宅介護支援センター開設（与謝医師会館内）窓口で介護の相談、保健施設サービスの申請一本化総合窓口としてとりくんでいます。

(ニ)身障者用のマイクロバス（リフト付き）を導入しました。

(ホ)あんしん住まい改修補助金のアップ

○道路交通網の整備促進について

若者の定着、市の活性化のためには、交通網の整備が重要である。

(イ)京都縦貫道、綾部―地頭（インター）間、九年度完成、十年三月頃には開通予定である。そして二十一世紀初頭には京都から宮津まで全線開通の予定である。

(ロ)新浜・松原線の拡幅が本格的に進んでいる。京都縦貫道と国道を結ぶ二・一キロメートル

ルの工事である。

- (ハ)鳥取・豊岡・宮津自動車道が計画路線に指定され、野田川・宮津間が整備区間に指定される。

- (ニ)宮津市内各路線の整備をし、縦貫道に続くよう工事が進められている。

- (ロ)三月十六日はダイヤ改正が実施され、北近畿タンゴ鉄道(宮福線)は電化により、京都、大阪方面よりの乗車時間も短縮され特急がたくさん入ってきます。西舞鶴經由の宮津線も新型特急タンゴディスカバリー(丹後再発見号)およびタンゴエクスプローラーを運行して対応して行きます。

○産業の振興について

- なかなかむずかしい問題であり、(イ)農業では、地域特産物の振興、担い手農家の育成といった地域営農対策にとりくんではいる。
- (ロ)商工業は、特に震災後低迷している。

商工業者の不況対策(震災)

として、市制度融資の利率引下げ等対策を行っている。

- (ハ)観光産業としての取り組み。市の六年度の統計で宮津市に來られた方は(年間観光入込客) 二七二万八千人

府内 一八七万五千人
府外 八四万三千人
利用交通機関は
自家用車 一二七万台
鉄道 四十万人

外となっていて、今後の交通網の整備に期待している。

- (ニ)企業の誘致及び地域産業については、きびしい状況が続いている。

○生活環境の整備と地域防災について

- (イ)昨年粗大ゴミ処理施設が完成し、皆様のご協力により順調に稼働している、今後とも、より一層のご協力をお願いしたい。
- (ロ)フロンガス回収事業も、七年九月より、府下先頭をきって

積極的に取り組んでいる。

- (ハ)新しく東部不燃物処理場が八年度に本格的整備が始まる。三年程度かかり八年度市の最大の事業となるでしょう。

- (ニ)地震災害に強いまちづくりとして、防災センター、休日の応急診療所の建設工事が進んでいる。なお、災害に備え、毛布、飲料水袋、給水タンク、簡易トイレ等救急用品の備蓄

とともに備蓄倉庫の建設をする。近く耐震診断のマップが各家庭に配布されるので、自分で診断してほしい。

- 教育、文化、人口問題

(イ)観光ルートとして、三上家をふくむ、ぶらり歴史のみち、ぶらり寺まちのみちを整備(休息所、マップ等を作成)して、ゆっくり宮津市を知っていただくといった計画がなされている。

- (ロ)昨年十月一日の国勢調査によると、平成二年、二六、四五〇人、平成七年、二四、九三

七人という結果になり、五年前より一、五一三人の減となるきびしい状況である。なお昨年三月末由良一、五八二人

栗田二、六九一人である。ちなみに市の第四次総合計画による十年後の人口は三万人と設定されています。誠にむずかしい理由があるにせよ、人口の歯止めは宮津市の活性化、発展の大きな要素であり、何

としても人口増にむけて一層の努力と対応が必要である。

以上一年間の取り組みを報告し、皆様のご理解をお願いいたします。

◎中西自治連会長より

山下議員よりは、市の取り組みをお話し願った。

私の方よりは、由良自治連合会の状況をお話しする前に、本日出席されている方の顔ぶれは、ほとんどが団体の役員さん方が多い、やはり一般の方もたくさ

ん出席してほしいし、公民館の方でも考えてほしい。

○道路関係について

(イ)国道の舗装は平成三年から行

われているが、平成七年度は、

二月から三月にかけて、浜野路の住宅(四方さんまで(二

五〇メートル)、現在工事中

である。今後は港(石浦の方

向に工事が進められて行くが、

お金のかかる側溝と舗装が併

設されるので、どうしても工

事区間が少なくなり、そのた

(ロ)市道の四方さんより脇の方も

大分いたんでいるので、市に

申請せねばならない。

○平成七年六月末に由良川の護

岸の補修工事が完了。

やいた式——鉄板を打ち込

み、その前に石を並べる方式

で四〇〇メートルの立派な護

岸が完成した。

○海岸道路

海岸道路に扇型の階段(テ

レス)を設置。

海水浴場として、海と海岸の調和を考えた、すばらしい階段が脇より芳月旅館下まで完成している。

○脇海岸

脇地区より府の公園として

貸している。二五〇と三〇〇

メートルにトイレ(前年)脱

衣場、遊歩道が完成、海岸の

環境整備が進んでいる。

○砂の侵食による砂防堤につい

て

最初は、くし状の砂防堤、

次に離岸堤(七基)をもうけ

たが、観光地として余りよく

ないので、水面より見えない

人工リーフ堤を作っていく。

工事費も一基が四億(五億と

なっていて徐々に進ませせて

いく。

○海水浴場の整備

由良地区全体で一回浜掃除

をお願いしているが、今年

は市の方より浜掃除用として夏

にビーチクリーナー(一、三

〇〇万円)がお目見えし、観

光業会の方々により浜掃除をお願いしています。

○奈具温泉開発

奈具海岸、三枚橋(栗田と

の境界の由良寄り)

深さ一、五〇〇メートル、

温度二五度、京営商事、一二、

〇〇〇坪、工費三五億。

長期療養所として申請が出

されているが、バス等が施設

に入るとなると、出入口を中

心に道路の拡幅工事やいろい

ろむずかしい問題が山積して

いる。由良自治連合会として

も、真剣に考え取り組んで行

かねばならない。

○由良の海と、川を美しくする

会

皆様のご協力による、空缶

ひろい等の取り組みの中で、

平成七年六月五日、東京代々

木において、環境庁長官表彰

を受けた。

○由良地区の消防団について

昨年からお話ししていた、由良地区の消防団員で、現在

由良で勤めておられる方は六名よりいない。もし出火等災害が発生した場合どうしたらよいか。由良におられるOB

等で自衛消防方式を作つたら

どうかといった話も検討され

ていましたが、第一線はあく

まで消防団であり、各自治会

が協力して行くということに

なりました。

○鳥獣駆除

穴熊・鳥等がたくさん出没

して被害を与えるとの申請で、

許可を受け、猟友会に駆除を

お願いしました。結果は次の

とおりです。

穴熊 八匹 鳥 四羽

○歴史をさぐる会

平成七年四月十六日、歴史

をさぐる会会員さんにより、

蜂子皇子ゆかりの地、港地区、

稲荷神社境内に、「蜂子皇子

船出の地」の石碑を建立され

ました。

由良地区として、山形県庄

内由良と友好関係を取り交わ

し、現在も親しいお付き合いが続いている。

○近畿タンゴ鉄道、電化記念行事として

平成八年三月十六日ダイヤ改正（宮福線電化）による記念行事が行われる（宮津全体で三二〇万円）由良地区一人当り一〇〇円を拠出して応援することになった。

以上まだまだありますが、重点のみ報告させていただきます。

【◎意見 ◎質問 ●回答】

◎電化になり、由良からの連絡はうまくいくのか。

◎由良川の鉄橋が使えなくなつた場合どうなるのか。

●電化により、宮福線が主流となるが、宮津線も特急タンゴエクスプローラーが西舞鶴経由で利用できる。また、特急タンゴデイスカバリも上り下り共に由良駅で停車利用出来る。●鉄橋についてはどうなるか分

からない。

◎挨拶運動は人間と人間のコミュニケーションであり、大人が声を掛けないとほとんどの子供は挨拶しない。大人がもつと気を付けてやらなければならぬ。

◎山下議員の話で、国勢調査により人口が減り、宮津市が宮津村になりつつある。

◎中西自治連会長の話で、消防団員六名では、消防自動車も動かせないといったことではどうにも致し方ない。三部の支部長さんより団員の確保についてお願いしてほしいと頼まれて来た。各自治会長が地区の皆様にはピーアルするよう活動してほしい。

◎出勤で事故のあった場合の補償問題。消火栓、格納箱の管理。

●団員の確保については、各自治会長とも年頃等を考慮しながらお願いしている。

●消火栓、格納箱共、近所の方

をお願いしている。

●事故の場合の補償については、市の条例で決められている。

◎協公民館前の用水池に水が来ない。市の消防署より来て、少しいらって帰り、そのまま来ない。再度上申したら予算がないとのこと。どうしたらいいか。

●予算がないということでは片付けておくことは出来ない。調べてみます。

◎由良地区は、だんだん取り残されて行くのではないか。温泉の話も聞かせてもらった。起爆剤として、山手にパイパスを作ってもらう市の方に押し進めて行ってほしい。

●温泉、水源等の探査をお願いするについては慎重をききかねばならない。温泉ということになると一、五〇〇メートルは掘らねばならない。誰が掘るんや、という問題もある。市として、温泉として看板を上げられるのは由良のみであ

るが、むずかしい問題もある。

◎下水道、流域下水道の指定地になつていない。水田の荒地、広大な土地を皆の知恵で何とか出来ないか。

●市の下水道が完成後は、日置のリゾート地となり、その後由良地区が指定されるのではないか。それについては、今後充分勉強会をしていってもらわねばならない。水田の線引き、農用地、被農用地の認可がまだ下りていない。もう少し下りて来るので、その時点で考えて行く必要がある。

◎由良川―高瀬舟―由良川を活かす方法も考えねば。水田利用ハス池等もある。観光地でありながら、観光パンフ、絵はがき、土産物等、由良としてのがなにもない。

両氏には毎年講話をお願いし、有難うございます。

参加された皆様、有難うございました。

自治学級に参加して

塩田 禮子

今年も、二月十一日(日)、午後から三時間びっしり、由良の里センターに於いて、「明るく希望に満ちた由良の創出」について、自治学級が開催されました。

まず、市会議員の山下伊佐衛門氏により、宮津市政の展望について、講話をして頂きました。内容としては、①若者の定着できる町づくりを ②四階建立体駐車場の建設(第三セクター) ③阪急電鉄ショッピングセンターの建設 ④高齢化社会に向けて、在宅介護支援センターの開設、ホームヘルパー常勤二名増員他 ⑤交通網の充実として、三月十六日鉄道電化開業、宮津アクセス道路工事他 ⑥生活環境設備では、粗大ごみ処理施設の稼働一年を迎えて他 ⑦防災強化体

制では、消防・防災・休日医療の複合施設が須津に建設中、防災マップの全戸配布他 ⑧人口減少の深刻化等。

次に、由良自治連合会長の中西孫兵衛氏により、由良の施策について、身近な地域の実情を講話して頂きました。①国道の舗装について、当初の計画より工期が遅れたのは、側溝工事と併せて行う事に変更されたためで、八年度より、港、下石浦、上石浦へ順次施行 ②由良川の護岸工事の完了 ③海岸工事として、国定公園の整備、海水浴場の整備(階段の設置他) ④ビーチクリーナーの購入 ⑤奈具温泉開発への対応 ⑥害獣駆除の実施 ⑦消防団員が、昼間数人となる現状等。

以上は私が受講して得たまと

めで、もっとくわしく盛りだくさんの、内容のある講話であった事は申すまでもありません。そして、熱心に質問、意見、討議されました。

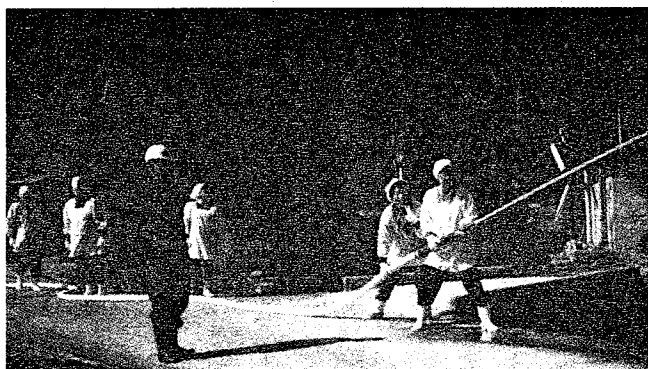
今日、お聞きした事は、私達も必要な事柄と感じ、私も「広報みやづ」を読んだりしています。自分が生活していけるのは、決して当り前ではなく、多くの方々に助けられているおかげだと思っています。

こうして、市や区として取り組んで頂いている事を、特に身近な問題を直接聞かせて頂く事で、本当に良く解り、改めて取り組みに対して感謝しております。

自治というものは、皆で考え、皆で決め、皆で守り、お互い理解し協力し合って、人としての生活をより豊かに快適に過ごせるという事が、基本になっていると思えます。

そのためには、地域の人達が一人でも多く一同に会して、同じテーマで話を聞き、討議し、

学ぶという事が、とても大切だという気持ちになりました。私も、この一年間、婦人会の本部役員をさせて頂いたおかげで、たくさんの方々とお出合い出来、私なりに、いろいろな貴重な勉強をさせて頂きました。本当にありがとうございます。「住みよい由良」を心より願っております。



生涯学習と公民館の自治学級

小松 忠 衛

生涯学習とはそれるところもあるが、思ったままを述べさせていただきます。なぜ、生涯学習が必要か、例えば中年以上の多くの人へのワープロ、マイコン等々、社会生活に適応した企画がなされているが、特に高齢社会においても、一人ひとりが楽しく生き甲斐のある人生を送ることを目指して、生涯にわたって学習することを基本理念としているようである。

言い方を変えれば、活力ある社会を築いていくためには、学校中心の考え方を改め、生涯学習への移行を図っていかなければならない。国民一人ひとりが評価充実した生き甲斐（楽しみがただけでなく、教養を身につけ、老後の暮らしに豊かさを増す人生）を送ることを目指して

いく必要があると思います。

さて、右のように生涯学習の指導が強調されるのも理解される。府内の地区によっては中身のある学習事例が発表されているが、当由良地区においてはどうか。

二月十一日（日曜日）、由良公民館主催で開催された恒例の自治学級のことに及んでみるが、出席者が余りにも少ない。これまでもそうだったが、ずばり言わせてもらおうなら、由良地区民の郷土に対する関心は、実に心細い限りである。

今、由良はどんな現状か、どんな事業が行われ計画されているのか、田畑やみかん、川や山林や海はどうなるのだろうか、等々、現状を知り、何とか各自の考えを出し合って、由良地区

の要望として、市議会議員、自治会を中心に市へ要望していく。

熱意のない地区への行政の関心も薄れる。あるいは由良はこれ以上どうにもならない。仕事場もないし、学校を卒業させて都会へ出して就職させるより仕方がないだろう。農事関係は老人にまかせて、だがその先はどうする。などなど各自各様の考えがあると思う。一度区民全員の方に由良の将来に対するアンケートをお願いしてみたらどうだろう。

なお、自治連と他団体相互十分意志の疎通を図り、大変なことでだが、それぞれの結果は内容により、関係団体も含め、協力して市当局にお願いしていくことが肝要であると思う。

青壮年層が少なく、高齢者がますます増えていく。吾々の故里をつくり残していくために、私達が学習していかねばならない。学習課題を少し挙げてみると、農地山林、家庭教育と青少年

年の課外活動、青壮年団組織の結成、冠婚葬祭の簡素化、老人学習（特に独居老人の訪問、老人と健康問題）、レクリエーション、文化講座、同和学習等、多くの学習を生涯つづけることを指導している。努力は必要である。

毎月の府民だよりを見れば判るように、スポーツ施設や文化施設からのメッセージ、ワープロ、パソコン等々、いつでもどこでも自分の好きな学習ができる。宮津市では、決められた場所、講座内容となっていて参加しにくい。福知山一川の橋立間の電化記念祝賀行事が盛大に行われたが、生涯学習のみならず、もっと大切なものが失われていく思いがするのは私一人だろうか。



今、私にできる小さなボランティア

柘 本 清

私たちが毎日目にする新聞ひとつを見ても、どこかのページに高齢者問題についての記事が掲載され、その領域を見ても、福祉のみに限らず、医療、保健、生涯教育、スポーツをはじめ、国際的にも及ぶ広範囲におよんでいます。また、さまざまな領域でボランティア活動の必要性が叫ばれ、特にボランティアという言葉そのものが私たちに身近く、しかも強烈に心に刻み込まれたのは阪神・淡路大震災の折のテレビ、新聞報道の力が大きかったと思います。

高齢者問題は老人も若い世代も総ての一人ひとりの誰でもが避けて通れない身近な問題であり、共助活動にも、老人にできるボランティア活動にも、これからは積極的に取り組む姿勢が

期待されると思います。

いま、私の体験したボランティア活動を始めてからたくさんの人との交流がもてるようになり、本当にボランティアが行えているかどうかは分かりませんが、他人から望まれること、また自分がこうしてほしいと思うことを他人にも行う。そして相手に喜んでもらえたら、それは最高の喜びだと思います。いま、年少の幼稚園児から小・中・高校生が学校でボランティア精神を育てるニュース等を聞いたときに、私は人の痛みのわかる優しい思いやりの心と、大勢の人とのふれあいを大切にしている心がこの人達に芽生えて、心に得るところの何かをしっかரிつかんでほしいと心から願わずにいられません。

体験(一) 昨年阪神大震災のあと、

災害地の子供たち男女十五名の丹後地方への招待

体験(二) 同じく子供たち、八月、丹後町協力で海水浴テント張りのキャンプ生活への招待のボランティア参加の呼びかけがあり、ちょうど家内が大勢の方々に助けられ入院生活の最中でしたので、何の抵抗もなく早速応募し、微力ながら自分にふさわしいお手伝いをする事ができました。

体験(三) 京都の老人保健施設「紫雲苑」に入苑中に、京都の中学生の孫がおばあちゃんに見せるのだと言って紙芝居を持つて見舞いに来てくれました。久々にみる紙芝居に、懐かしさの余り私たち夫婦だけでは勿体ないということ、苑のレクリエーション係を通じ、下手な私の紙芝居を入苑者の皆様にも観賞していただき、それから月二回くらいずつの予定で図書館から、

例えば、牛若丸(唄) 京の五条の橋の上……

源平の戦 源平勝負の晴の場所……

とか借用して、入苑者の観賞の方々にも大きな声を出して昔の唱歌や童謡を歌ってもらおうのも、老人の一つの健康法だと思いましたが。

また、時々孫と一緒に見舞いに来る次女も、紙芝居、うたやピアノで共演してくれて、入苑の皆さんに懐かしく楽しいと好評でした。

そのほか、苑内の毎食事、おやつの時出されるオシボリたみや車椅子の散歩の手伝い、さつま芋の苗さしの折には講師？として入苑者と一緒になって秋の取り入れを話しながら喜び合いました。

体験(四) 京都市左京区役所主導の久多地区の栄養指導ボランティアをやっている長女からの話で、左京区を通じ体操の指導をやってもらえないかとの話で、それでは皆さんと一緒に楽しくみましようということ、去年

の十一月から以後毎月第三土曜日を実施日としてボランティアを実施して現在に至っています。

この久多地区という所は、大原三千院から更にマイカーで四、五分間走る、山また山の全くの陸の孤島としか言いようのない、ここが京都市かと疑うくらい山の地域で、地場産業の林業の不振で若い者が都会に出る典型的な老人過疎の地区で、京都市の地の利や、福祉の光が届きにくいこの地域にこそ、もっともつと光を当ててやりたい思いで一杯であり、私のこの小さなボランティアが地域の老人の方々に寝たきり老人を作らないためにも、ストレッチ体操、腰痛予防体操、失禁予防体操等を通じて少しでもお役に立てたらと願うと同時に、この体験を通じ、また新しい芽吹きが創造へとつながることを夢見て、体力の続く限り、いつでもどこへでもボランティアに挑戦したい希望を持っています。

春の交通安全について

由良駐在所 森 田 浩 志

一、子供の交通安全

新学期を迎えて、子供たちの意気揚々とした姿を見ると、私たち大人も活気が湧いてきます。陽気に誘われ、元気に走り回る子供たちの姿が目には浮かびます。

しかし、一番心配されるのが交通事故です。春休みで気分的にも浮かれがちになっていることなどから、この季節は子供の交通事故が多発する時期でもあります。子供を悲惨な交通事故から守るため、交通ルールと交通マナーを正しく教え、子供自身が正しく実践できるように習慣付けてください。

☆子供の交通事故の特徴

○「飛び出し」が最も多い。
車が通り過ぎたからといって直ぐに横断しない。対向車がある場合、死角になる

ときがある。

○自宅付近で多く発生。自宅から百メートル以内で多く発生しています。自宅の近くだからと油断してはいけません。

☆子供の行動特性

○一つのことには注意がむくと、まわりのものが目に入らなくなる。

○信号が赤になれば、車は直ぐ止まるものと単純に理解してしまおう。

○その時の気分により行動が変わる。

○「危ない」とか「注意なさい」とか抽象的な言葉だけでは理解できない。

○大人のマネをする。
○いつも通る道では、交通ルールが守れていても、環境が

変わると、いつも教えられていることが、役立てられなくなる。

○物かげで遊ぶ傾向がある。

◎言葉だけで言っただけではなく、親が正しい手本をみせながら、子供自身が正しくできるようになるまで、何度も繰り返し教えてください。正しくできたときは、必ずほめてあげましょう。

二、高齢者の交通安全

若ければ難なくとれた行動が、高齢になれば、頭でわかっているても行動が伴わない場合が多くあります。昨年、京都府内において、交通事故で亡くなられた方の四人に一人が高齢者であることから、事故形態や防止策を考え、事故をなくすようにしていきたいと思えます。

◎交通事故により亡くなられた高齢者の六十パーセントが歩行中、十六・七パーセントが自動車運転中と、多くが歩行中であることがわかります。

◎この歩行中の事故のうち六十
三・六パーセントが夜間に発
生したもので、事故類型とし
て、

安全運転に努めていただきたく
と思えます。

○国道や幹線道路の横断歩道

以外での横断

○信号のかわり際の横断

等、道路の横断の仕方に無理
がある場合が多いようです。

◎こういった事故をなくすため
には

○必ず横断歩道や歩道橋を渡
る

○信号を守り、できればひと
信号待つ余裕を持つ

○夜間は、明るい服装や反射
材を身に付ける

など、少しの注意や工夫で事
故は減少させることができる
と考えます。

三、ドライバーの皆さんへ

子供や高齢者がいくら気を付
けていても、ドライバーに原因
があれば注意しようがありません。
自分の子供や親を交通事故
から守るという意識を持って、



一年を経て思う事

田 中 規 子

昨年の二月、思いもかけず婦
人会の役員に選出され、戸惑い
ました。その器でない事は自分
が一番よく知っています。しか
し、この地域で今まで生活し、
これからも暮らして行く中では
避けて通る事のできない道と観
念しました。

そこで、私なりに考えて、最
少限しなければならぬ事は何
か、それは今まで続いてきた由
良地区浜野路婦人会の存続です。
次へ引き継ぐための一通過点と
思う事にしました。そして、何
の気負いもなく、てらいもなく
淡々とを、身上に……

幸いにも一緒にやっていただ
く役員さんにも恵まれ、会員さ
んの協力も得て、今日、何とか
次の役員さんに引き継ぐ所まで
こぎつけました。先輩諸姉には

歯がゆい所も多かった事と思
いますが、ご容赦下さい。

役員になって改めて年月の経
過を感じました。それは、会員
の若返りです。毎日勤めに出
ているのを良い事に日頃は無沙
汰していた婦人会も、中に入っ
て行く若い会員さんが多く活
発になっていました。今年度も
四名の新しい会員さんが増えま
した。京都府下、また宮津市の
各地で婦人会が解散したと聞く
中、頼もしい限りです。

地域社会への役割参加と会員
相互の親睦を軸に、今後も長く
続き発展して欲しいと思
います。



詩をあつめて

藤 本 史 代

うす青き哀しみさそう春の雪空の彼方の詩をあつめて
鍵盤に春の旋律奔らせてひとりの界に華かざりゆく

春光に出奔の青き帆を張らむ未だ覚めざる心を持たば

いつせいに芽吹き初めたる林より春は樹液の駆け昇る音

若夏の風の奏でるラプソディー―天なる神のみちびくまに

自在なるさまに漂う若夏の雲へ預ける五月のこころ

はつ夏の空へ発つ風光る風夢の続きのページを繰りて

掌に揺らすグラスの氷ひんやりと解けて始まる夏物語

夏送る夕べの浜に散る花火消ゆる想いのひとつが浮けり

夏果ての空に明日への方位持つ鳥とはなりてわが張る翼

文学の見える風景(九)

上田三四二「夏行」その二

中 西 夏 江

前回では、小説「夏行」の主人公、香村(当時、青年医師であった上田三四二氏をモデルとした)が、今から四十四年前に、この由良へ保養のため来村、由良川河口を散策するあたりまでを紹介しました。

その頃の由良浜は、現在のような海岸沖の防波堤やコンクリートの歩道もなく、美しい白砂青松が自然のままに豊かな広がりを見せていました。

青い海を背景に、日輪の大きな輝きや心風ぐ由良の景観を「夏行」は、しつとりと余韻を漂わせながら描写しています。

P28～29 波打際から眺める砂浜はごくゆるく傾斜をなして陸地へと高まり、草地に移つ

てそこに丈の低い松を連ねているあたりに、月見草の群落がおびただしい数の黄色い花を綴つて、小さな灯がいちめんにともつたような鮮かさに咲いていた。

千鳥の鳴く音が波音にまじって聞こえた。鳴きながら波の間を飛び、彼等が向かって行く渚の砂の上に降りて、忙しげに歩いて、また飛び立った。四、五羽いるようであった。香村はその珊瑚の細い枝を集めて造つたような脚の跡がついてはいはしないかと、渚の砂が鏡面をなしてなめらかに光るあたりを注意しながら歩いたが、波が消したのか、見付けることが出来なかった。

砂浜が尽き、岩場にかわるどころまでやって来た。岩のあいだに、藻が揺れて透明な潮が動

いていた。波の音が高くなった。

そのとき、夕映がはじまった。

海も染まった。空も、海も、茜

の色に燃えるなかに、太陽を隠

した西の山が沈鬱な暗さに暮れ

て、影絵のように連なっていた。

西の山の先は長く海に延びる

謝半島である。半島の高く、

くれないを巻く雲があった。半

島をひたすあたりの海は銀に輝

いて、夕映を打消すようなその

銀白の反射光には、ところどころ

ろ、燃える雲の照返しとみえる

朱の色がまじった。刻々に空の

色合いがかわり、それにつれて

海の表情もかわった。梅雨どき

の夕映は華やきのなかにかすか

な濁りをまじえていて、海もそ

の不安を頒っていた。

手を振って応えた。

「遠いところまで、いらっしやっ

たのですね。」

水玉模様のワンピースを涼し

く着て、素足に履いた赤い鼻緒の

下駄を、香村のおろしたての頑丈

な男下駄の前に揃えた岸田弥生

は、彼を仰ぐようにして言った。

「夕日を追ってね。」

浜は闇がおりはじめていた。

※ 岸田弥生は、医師の香村が

勤める京大病院の内科に入院

していた患者で、その後、高

校の事務職員となっていました

た。保養が必要となり、香村

と同じ由良研修所へ入所して

来た——というところで、同室

の井口澄江と親しくしている

若いひとりの女性です。

「せっかくだが、踊れない。」

戦争に負けたのをさかいに、

若者たちのあいだで社交ダンス

は常識になっていた。香村は風

潮に抵抗したわけではなかった

が、興味がもてなかった。運動

神経がにぶいと決めこんでいる

ところもあった。

「へいき。リードしてあげます

から。」

※ 「スロー、スロー、クイッ

ク、クイック……。」と繰返

すうちに、何とか音楽に乗っ

ていけそうになります。香

村は協調をあやまって岸田の

足を踏み、その体重をまとも

に受けてしまいます。

「失敬。失敬。」

よろめきながら、崩れるのを

支える腕のなかに、汗ばんだ、

やわらかい肉の感触がなだれ込

んだ。

体をたて直し、縄れをほどこき、

離れた。きまりが悪く、もう踊

りをつづけることもならない。

※ 岸田は胸で荒い息をした。

※ 作家は、自在な精神と素直

な感受性で、揺らぐような哀

歎を気負うことなく温かい抒

情にのせて描いています。

P 4 3 連日の雨のようやくあ

がった日の夕方、香村と高岡は、

岸田弥生と井口澄江を誘って浜

に出た。——略——

P 4 5 垂れ籠めた曇の下で海

は濁って、強い波を砂浜に打ち

つけていた。沖の方に波の秀が

立ち上って、それがいったん崩

れるが、押し寄せてくる勢はそ

のままつづいているらしく、岸

にちかづくときまた齒噛みする白

波になった。白波は幾段にもなっ

て押しよせた。

香村は、波打際がえぐれ、傾

斜がついているのに驚いた。激

しい波のために渚の砂が沖に向

かって攫われて、荒々しい眺め

になった波打際に、たくさんの

漂流物が打上げられて散乱して

P 3 1 引返す彼らの前に二つ

の影が近付いた。さつき千鳥の

遊んでいたあたりで、岸田弥生

と井口澄江は立止まって、香村

たちの戻ってくるのを待った。

香村が手を振ると、二つの影も

P 4 2 ~ 4 3 娯楽室ではダン

スが行われていた。——略——

「踊りましょう。」

岸田弥生が寄って来た。香村

は、岸田の白いブラウスの胸の

前で手を振った。

「旅」のご案内……そして

KTR丹後由良駅 吉 田

いた。古竹がある、棒切がある。板がある、瓶がある、電球がある。下駄もあった。篠竹の類が多かった。大根がいくつも打上げられ、割れたり葉が千切れたりしている。きれいなままのものもあった。――略――

ところどころ、木片などが一個所に集められて、竹が立ててある。名前はないが、所有権を示しているらしかった。

P46 四人の足は自然に河口に向かった。漂着物にまじって、たくさん水母が打上げられて、死んでいた。大きなのは金盞ほどもあるのが、半透明に濁って湿った砂の上にとどろりとした感じに置かれていた。丸い傘に放射状に赤い条の入ったものもある。

――略――
水平線のあたりは空の曇がうすれ、視線のおよぶかぎりの遠い空が白く暮れなすむ先に明るんでいた。海も沖にいたるほど明るく、こんな寂光ともいうべ

き沖の眺めを背景に、冠島が影絵さながらに輪郭を浮かびあがらせながら、かつてない近きに望まれた。

P47 一行は歩みを返した。皆、黙りがちになり、うなだれて歩むような気分になっていた。足許ちかく打寄せる波の音が暮色のおりはじめたあたりの浜を宰領していた。

流離の思いが香村の胸に湧いた。

香村は、ふと自分の唇が塩気を含んでいるのに気がついて、並んで歩く岸田弥生にそのことを言った。

「ほんまに、からいわ。」
岸田は眼を細くして唇を嘗めた。それから、

「――腕はどうかしら。」
※ そう言って二つの腕を胸に

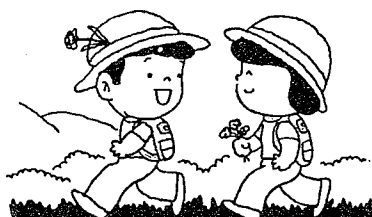
引き寄せ、舌を触れます。
「やっぱりからいわ。」と、
香村を見上げて微笑します。
(以下、次回へ)

北近畿タンゴ鉄道では『山陰本線宮福線等電化高速化事業』の完成に合わせて、平成八年三月十六日(土)にダイヤ改正が行われました。平成二年に、京都～園部間が電化開業され、今回、園部～天橋立間の電化高速化事業が完成しました。

れて、安心して乗車していただけるような気くばりがされております。

同時に北近畿タンゴ鉄道(KTR)に『新型ディーゼル特急タンゴデイスカバリー号』が登場しました。二両編成定員百名の車両です。一両自由席、あとの一両が座席指定となっております。丹後再発見号と名付けられ、ゆっくり、ゆったり、優雅な旅を演出しています。

運転席すぐ後がフリースペースとして広い空間が設けられており、トイレは車椅子対応、収納式ベビーベッドなどが備えら



良八時〇七分発京都九時五十六分着の直通の特急として毎日運転されており、三両編成で真ん中一両が自由席で、あとは指定席となります。丹後由良～京都間が特急列車となります（自由席特急料金一、二四〇円）。タンゴデイスカバリー二十二号は丹後由良十一時五十四分発で西舞鶴山陰を経由して綾部まで運転、綾部からは接続列車のきのさき六号にのりかえで京都まで。デイスカバリー二十四号は丹後由良十六時五十九分発で綾部まで綾部から接続列車のきのさき十号にのりかえ京都行となります。デイスカバリー号は丹後由良～西舞鶴間が特急として扱われ、大人三一〇円、小人一六〇円、西舞鶴～綾部間は快速列車として運転されますので普通運賃のみとなります。また、デイスカバリー号は天橋立～新大阪間も直通で運転されており宮福線で大阪が近くなっています。他に天橋立～新大阪間を電車特

急『文殊』が二時間〇七分、天橋立～京都間を電車特急『はしだて号』が一時間四十四分で結びます。下り方面のデイスカバリー二十一号、二十三号も丹後由良に毎日停車して運転しておりますので、皆様のご利用を、合わせてお待ちしております。山陰本線、宮福線が電化高速化されたことで、電化の進んでいない舞鶴線は少し残り残されたような感じですが、北近畿タンゴ鉄道の列車はなくてはならない足だと思えます。

そしてこの丹後由良は立派な史跡や由良みかん、ハクレイ酒造の地酒ほか名産品もあり、新鮮な海の幸でゆつくり温泉に入ってくつろげる旅館などもあって、都会にはない良さがいっぱいあると思います。山椒太夫の物語については、地元の私の知らない事を観光客の方から聞いてとまどう事が多く、知識のなさを反省ばかりしています。想像以上に他県の方達は関心が深いこ

と、そして熱心に資料持参で見ると本当に頭の下がる思いがします。それに答えられる何かがあれば来ていただいた甲斐があると思います。立て札の一つでもいいと思います。それと由良ヶ岳に登られる方達も、年間を通して随分多いのにびっくりしています。宮福線、山陰本線の

電化をはずみにさらに丹後の発展と、なんといっても、観光地丹後由良に大勢の方が来ていただけの受け入れ体制を、幅広い力で心掛けて下さいますようお願い致します。

この度の電化事業に際して、思っていることを少し述べさせていただきます。

郷里に於ける澤井市造話題(十三)

作 中西 孫兵衛 (先々代)

由良の歴史をさぐる会 四方 寿 朗

夕方に村の有志者五六名村を代表して沢井君に挨拶旁々大なる軸物を贈呈する爲持参せられた其中の一人なる大森清四郎氏雑談の折柄「如何に豪傑なる尊公でも死は懼らるゝであります萬事徹底する迄の堪忍力を養うと今日の御演説に伺ひましたが死せば中途にして其業は廃るでありますから」と申されたれば

君は「否尤も生命は大切であることは申迄もなし然し乍ら多くの人は斃れて後止むと言はれませんが私は斃れても尚止まないのて決して死しても死にませぬ是非目的物を達せねば置かぬといふ覚悟である」と答へられた我々は傍聴しつゝ仮令一時の雑談とは言へ大に趣味ある語と感じました今澤井家所蔵となれる御所

殿中歌の会の図の大軸は此時紀念物として贈呈せしものなり此夜本家沢井長男市藏氏中学校卒業後の方針に関して母おちよさんより市藏の身の上を市造君に頼み暮れとの事故三人市造君に相談旁々頼みました時「乃公の親類に人物は一人もなし市は沢井本家の産れ殊には相続者なれば汝を人並の者にしたし学科には敢て注文はないが大学に入り卒業せよ但し否やで彼の清水の畑（土地の字）（肥槽を荷いで農業に従事する歎如かず大学に入り名を挙げんには果たして大学に業を卒ゆる勇氣なきや」との事市藏氏其決答には稍躊躇したり私は傍らに在りて勧告を試みただれども御當人は何等の答えもなし私はもどかしく感じ本人を別室に誘ひ行き敢て躊躇する場合にあらす速に確答せらるゝ様勧告しましたら工学校希望との事故やかて復座に復り本人の志望のある処を傳え茲に前途の方針を定むることゝはなれり

其二

明治四拾三年秋小室老母大病起り糸藏氏福井尚の両氏介抱に帰宅引続き澤井君も亦た帰郷せられ三四日滞在相談の上本郡餘部町博愛病院に入院させ三人の一行は帰阪せられたり
右滞在中沢井君曰く「帰郷毎に感ずるは此村の前途如何に在り労働者の生活は果して如何ぞ就ては是れ迄にも話した通り多少の資金を擲つから何にもあれ紀念となるべき考を求めたるも今に於いて是といふべき話もしてくれず依て更に一步進んで三萬円餘りは出資すべければ永久に持続経営すべき労働者の仕事となる方法を案出して貰ひたし果して成就の暁には五郎兵衛に市といふ子がありて其子が成し呉れたる事業なりとて永世不朽に言傳へて貰ひたき企望である君宜しく考一考せよ」と私も種々考慮を廻らしたれどもいづれも一長一短是といふべき確実にして労働者の救済をなすべき好案

に接せず頗る苦惱中今日となり折角全君が素志をして現実ならしめざりしは遺憾千萬といふべし

拾七

明治四十四年十一月小室の老母復亦大病にて糸藏氏夫婦に福井尚来り種々手術を尽し当地にても野瀬遠藤の両医を迎え少しく快方に向ひたれば福井は帰阪せしが再び重患に陥り沢井君は急速福井を連れ来村せられ手を換え品を換えあらゆる看護に赤誠を捧げられ沢井のお孝さんも亦来り介抱せられ病勢少しく怠るにつけ沢井君は一度帰阪せんとされしも病人之を諾せず時恰も村上章一氏見舞に来られ同氏より病人（沢井氏帰阪の理由を懇諭せられしににて承知せられし模様故明日にも出発せらんとする利那に容体激変し又々危篤となり終に薬石其効を奏せず黄泉の客となられた

但し沢井君の母として盛大なる葬式を営まれし事は前条之

を詳述せり

私が御悔みを申し上げましたる処コハ如何に平素礼節に拘泥せざる君が態度劇変し敷ける蒲団より滑り下り低頭平身して是れまで万事に就き何彼と世話になりたいといふ謝辞と又自身に爲り代わりて常に慰藉を与へ呉れたといふ事延いて毎度ながら葬式に付萬件宜敷依頼すといふ事を最も謹厳鄭重に述べられたには



私も一時狼狽して答ふる処を知らずといふ有様なりき

此滞在中に氏神の普請の事も話しを致し図面なり設計もみて貫ひ氏子総代やら区長なぞ素人的の考案なれば失態なき哉を檢し意見を附して貰ふ事として中西一雄大森清四郎の両氏と私と三名立合ひ沢井君に一覽を乞ひ意見をも承り尚念の爲め組の抑氏に査閲させせしとの事にて一件書類は持帰られたり其節寄附金の事は孫兵衛と相談し置くべしと申され是は山田市三郎の座敷での事此他に大森慶藏様の軸物五六点を一覽に供し小室方へ持帰られたり私は寄附金は何程するかと尋ねたるに「そは君の胸にあるでないか」と申されしにより「更に夫以上は出ぬ敷」と問返せば「一寸困る」と云はる併し総方共妙な話して一方は君の胸にあるといふ一方は夫より出ぬ敷といふ既に電気で

も通ひ居るものゝ如し

小室方にて佛(勤むるお伽を爲

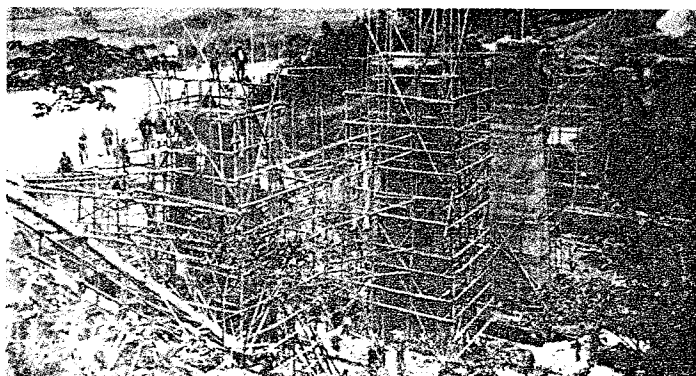
しつゝ浮世話に兩人寝そろびながら語合ました事で沢井君より

「乃公は君と喧嘩したり意見の衝突をしたる事は曾てなし」と申されしにより「其様な材料が無きにあらざるや」と答へたれば呟いて「時に君は追々人格を高めたよ」と申せば「イヤいけな

いよ何分素養がないかな喃」と云はる又私より「君は第一礼儀をしられで居るには感服して居る」と云へば「イヤ場合により必要があり自然的に成るのみだ」在様なる事を語り合ひつゝ他に聞く人もなく夜を徹したといふ始末

和尚の仰せらるゝには下衣は前年おす満さんの時に貰ひ法衣は

お媼さんの骨折で出来たのである架婆さえ調べなば皆澤井家の物で式に出らるゝ又正導師として脇導師より麗未なる服装では何となく気が引ける感じもする少しく乱暴だけれども取り敢ず買調べて来た何卒沢井さんを程よく頼んで呉れといふ話なり小室方へ帰りまして其旨を沢井君に話しましたるに「そんな事で京都迄行かれたのか」と計りでありました私は午前三時に一と先づ自宅へ帰りて寝ましたが其後にて沢井君は来る人毎に和尚はなかなか豪らい「乃公は徹夜してまでそんな事は出来ないん豪らい」と満足せられたとの事私に早く出て来いとどの使で又私も行くとして出かけて居ました寺へ行くや出合頭に言葉もなくてポケットより摘み出してウンと突き出されましたから「夫は何だ」と申せば



沢井組が工事中の
北海道下富良野線
高根川橋梁

川柳

宮津番傘川柳会

子のいじめ遺書が盲点突いて出る

欲張った拳つぼから出たがらぬ

田村 キヌエ

前向きになろうと何度も手を洗う

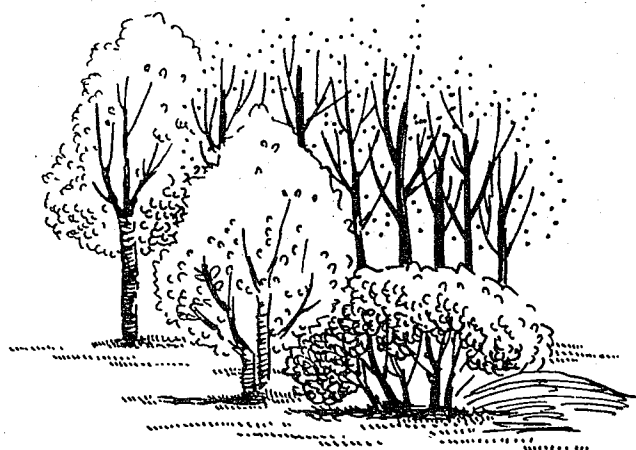
たんぽぽの軽き宇宙を模索する

大森 美智子

草もなく木もなく涸いた壺を抱く

空間を漂うだけの主張かも

飯沢 鳴窓



編集後記

郷土由良、の歴史年表を作りたいナア。文化部幹事会の話題となったのは、数年前のことでした。去年の初夏、須津地区での年表作りの様子が、大きな刺激となり、成算見込み未定のまま、文化部事業として取り組むこととなりました。

幸い、歴史をさぐる会の応援の中、中西夏江さんを中心に、史料の収集や記述を進め、未熟ながら雛形様のものを文化祭会場に展示し、皆様の供覧に付しました。

史料・調査研究等、まだまだ不足のため記述事項も疎で、年表の体裁も整っていませんが、歴史を探る会の皆様や、地区の方々からの史料の提供やご指導を得ながら、編集を進めたいと考えています。

平成七年度事業も、地区大運動会を除き、皆様の温かいご支

援ご指導のもと、大過なく終了することが出来ました。深く感謝の意を表し、お礼申し上げます。二年に一度の大運動会は、生憎の雨天となりました。多くの方々が率先して鍬、スコップを取り、雨の中、グラウンド整備や排水作業に取り組んで下さいました。善意溢れる尊い姿に接し、目頭が熱くなったのを今でも覚えています。

残念ながら、運動会は途中中止の「己む無き」に至りましたが、当日雨の中グラウンドによせられた皆様の行動は、郷土を愛する純真なところ、隣人を愛し信頼し合う溢れる心情が示されたのでした。豊かで明るく住みよい故郷、由良作りに大きな力になることを信じます。

(山下記)



四方寿朗氏提供

(~~7/17/15~~)